



特務士官 野口良作

砲術士官の生涯
(1919年—1942年)

令和8年1月4日
野口 豊

趣旨

本件は、祖父である野口良作特務中尉(戦死時)の約23年間に及ぶ海軍経歴を中心に調査したものを取りまとめたものである。将来的に説明又はプレゼンテーションを行うことを見据え、各スライドは、16pt又は18ptを主とした。また、作成者は公人でなく、私人として本内容を作成した。

次 第

- 1 概要(人物要約)
- 2 生い立ちと海軍への入隊
- 3 兵・下士官時代の経歴
- 4 上海勤務と兵曹長時代
- 5 特務士官としての昇進
- 6 巡洋艦「天龍」での任務
- 7 戦死とその後について
- 8 結語・人物評価
- 9 残された遺族について



作成者 後書き

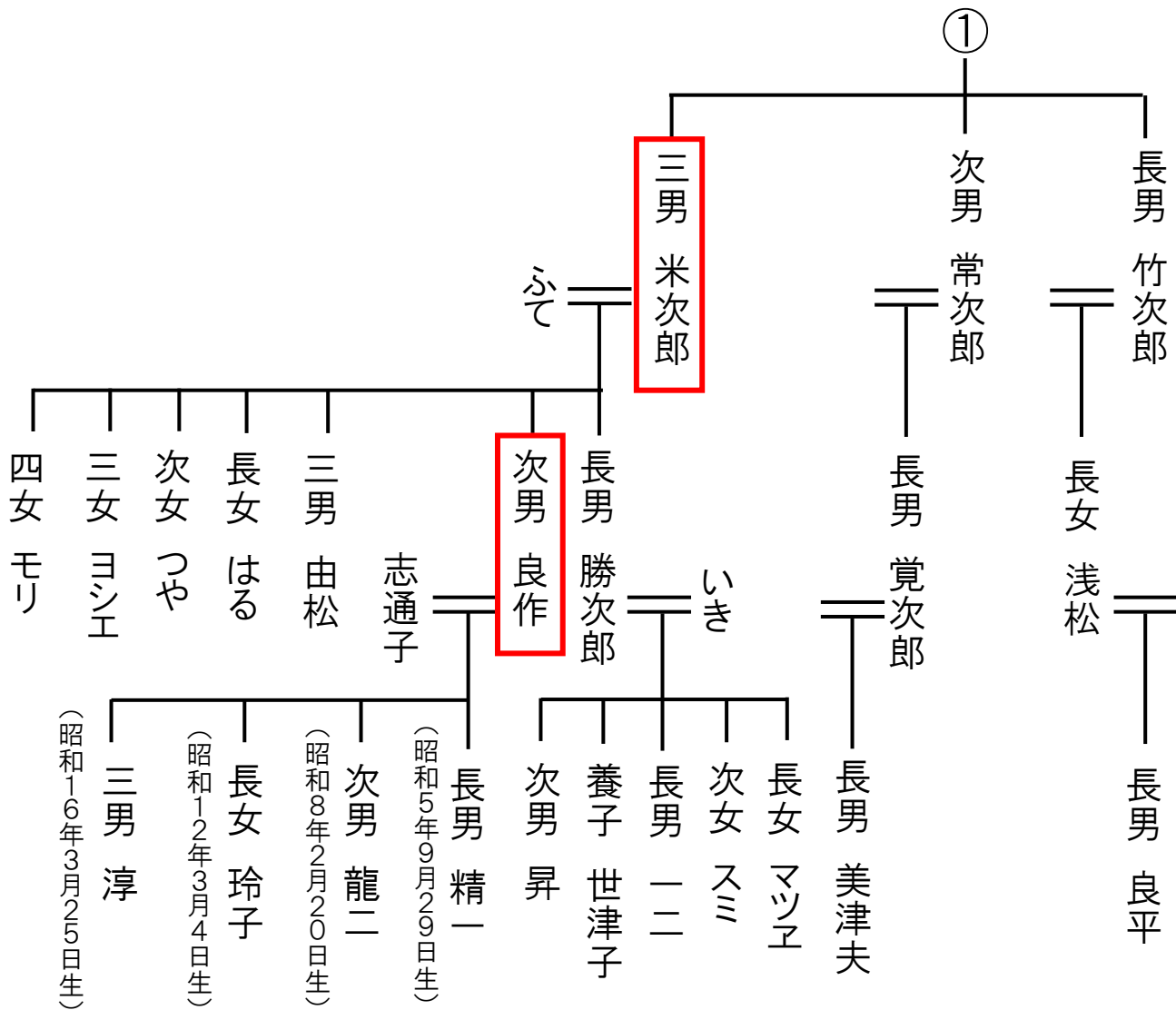
主要参考・引用文献一覧表

1 概要（人物要約）

項目	内容	備考
生誕	1902年(明治35年)1月15日	戸籍謄本で確認
出身地	富山県下新川郡入善町入善町栲山	
死没、場所	1942年(昭和17年)10月2日、ニューギニア島東部ラバウル港 巡洋艦天龍艦上(享年41歳)	米軍爆撃機の爆撃による戦死
所属組織	大日本帝国海軍	
専門	砲術	
最終階級	特務中尉(戦死後、特務大尉に昇進)	
勲章	正七位勲四等功五級	
出身校	栲山尋常小学校卒業(12歳)	1914年(大正3年)3月
配偶者、子等	志通子／精一・龍二・玲子・淳	スライド4を参照
墓所	神奈川県横須賀市馬門山	

野口家家系図

1902年(明治35年)1月15日、野口良作は、野口米次郎の次男として誕生



①:「同」は調査中

六右衛門 — 同 — 又吉 —
 (不明?)
 (1828年(文政11年)?)

菩提寺は、善称寺
 (富山県下新川郡
 入善町東狐1018)

2 生い立ちと海軍への入隊

海軍の入隊まで

- 小学校時代、算術、ソロバンが得意であった。特にソロバンは、両手で行う、いわゆる「**両手はじき**」を身に付けていた。
- **字が上手く**、戦後まで梶山尋常小学校の校内で、習字が掲示されていた。
- 1914年(大正3年)梶山尋常小学校卒業後、中等学校に進学したかったものの、家庭の事情により断念した。理由は、家業の「酒屋」の経営状態が良くなかったためと言われている。以後も勉強できる行き先として、海軍を志願した。(次男 龍二氏談)

海軍の入隊

- 1920年(大正9年)6月、18歳で海軍(**舞鶴海兵団**(京都府舞鶴市中舞鶴))に入団
 - 1943年(昭和18年)、海軍合同沿葬及び村葬の公報に、舞鶴海兵団への入団が明記
 - 徴兵は、毎年1月入団で約4か月半、志願は、6月入団で約5か月半の基礎教育を受けた。(*1)
- 入団後、いずれの部隊に配置されたのか不明
 - ◆1920年6月 舞鶴海兵団(約5か月半、初年兵は、海軍基礎教練、規律、精神教育等を教育)
 - ◆1920年11月同修業、舞鶴の部隊に配置(推定)
 - 舞鶴鎮守府が、舞鶴の兵・下士官の人事を管理
 - 兵・下士官時代に巡洋艦「最上」、巡洋艦「那智」に乗艦の証言あり。(要確認)

*1 太平洋戦争研究会(2003年)、『江田島海軍教育』、新人物往来社、p192~195

3 兵・下士官時代の経歴

- 入隊後、1935年10月海軍兵学校選修学生入校までの経歴が不明確であるため、以後、一般的な海軍下士官の経歴に基づき、推測する。

時期(推定年齢)		階級	解説
海兵団入団後(18歳)	兵	4等水兵	
海兵団修業後(18歳) (入団から約5か月半)		3等水兵	<ul style="list-style-type: none"> ・下士官(3等兵曹に昇進)になるためには、特技をもつことが必須 ・特技を持つため、それぞれ専門の術科学校に普通科砲術練習生教程に入校
海兵団修業後、約1年半 (20歳)		2等水兵	<ul style="list-style-type: none"> →「野口良作」は、下士官になるまでに、横須賀砲術学校に約6か月間入校し、「普通科砲術章」を獲得(*2) ・下士官の任用試験(甲乙種(*A))、勤務成績、品行、実務技能から下士官の合否が判定(権限:舞鶴鎮守府長官)(*3)
2等水兵昇進後、約1年 (21歳)		1等水兵 (花の1等兵)	<ul style="list-style-type: none"> ・志願兵の1任期:5年。「野口良作」は、入団後、5年(23歳までに)で下士官(3等兵曹)に昇進したものと推定

*2 坂本明(平成26年)、『ミリタリーユニフォーム大図鑑』、文林道、p90

*3 池田清、野村実ほか、近現代史編纂会(2001年)、『海軍艦隊勤務』、新人物往来社、p22~37

3 兵・下士官時代の経歴

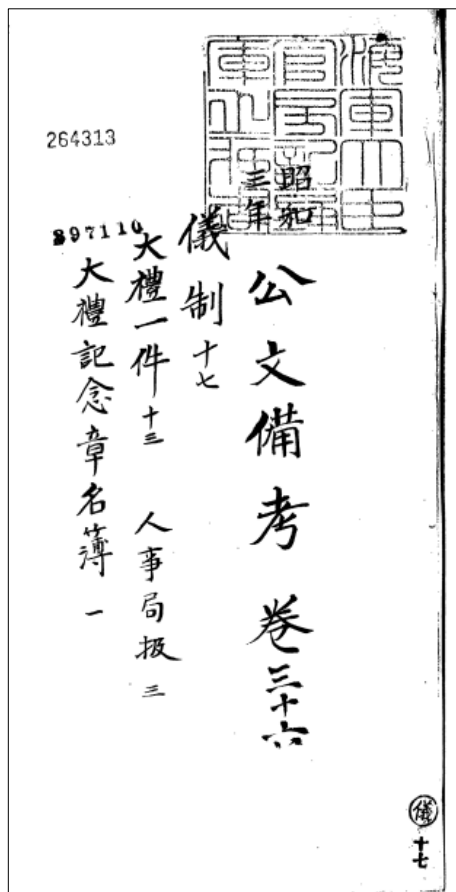
時期(推定年齢)		階級	解説
1924年 (大正13年) (23歳)	下士官	3等兵曹	<ul style="list-style-type: none"> ・昇任は、考課制度(勤務成績、上官の所見等)、昇任試験による。 ・1928年(昭和3年)、「1等兵曹」であったことが資料で判明している。(次ページで解説) ・優秀な下士官は、善行賞(3年勤務)の付与前に昇進していたことから、2年毎、昇進していた可能性
1926年 (昭和元年) (25歳)		2等兵曹	<ul style="list-style-type: none"> ・2等兵曹へと昇進する者は、高等科砲術練習生教程(横須賀砲術学校:約7~9か月間)に入校する必要 →2等兵曹になるまでに同教程に入校し、「高等科砲術章」(*2)を獲得していたものと推定
1928年 (昭和3年) (27歳)		1等兵曹	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに准士官に昇進を望む者は、高等科練習生教程を終了した者から選抜して、特修科砲術練習生教程(横須賀砲術学校:約4か月間)に入校する必要。 同教程では、当該術科の「名人」を養成(*3) →1等兵曹の頃には、特修科練習生教程を修了していたものと推定
1934年(昭和9年)(33歳)	准士官	兵曹長	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和9年5月上海で撮影された写真から階級は、「兵曹長」であった。1934年(昭和9年)までには兵曹長に昇進していたものと推定

*2 坂本明(平成26年)、『ミリタリーユニフォーム大図鑑』、文林道、p90

*3 『戦史叢書第031巻 海軍軍戦備<1>昭和十六年十一月まで』、第二編 軍備計画の推移 第四章 人的軍備、p635

3 兵・下士官時代の経歴

1928年(昭和3年)、「大禮記念章(たいれいきねんしょう)」の付与名簿に「海軍1等兵曹 野口良作」が明記されている(下左図)。下士官の標準的な昇進よりも早かったことが分かる。ただし、名簿には所属部隊が明記されていない。



海軍	海軍	海軍	海軍
曹	曹	曹	曹
一	一	一	一
等	等	等	等
八	八	八	八
高村	西村	野口	川本
坂	村	良	仁
藏	要	作	十
			郎

「所属」。士官はほとんど明記されているものの、下士官はいうれも明記されず>(*4)

「勲」



大禮記念章

この大禮記念章は、昭和天皇の即位の大礼(昭和3年)に、参列した者又はその事務、要務に関わった者に対し授与された記念章(勲章)である。この資料では、即位の大礼において、「野口良作」がどのような役割を担ったのか明記されていない。

*4 昭和3年公文備考卷36、『大禮記念章名簿』、海軍省

3 兵・下士官時代の経歴

残されている記念章に「昭和6年乃至9年支那事変従軍記章」（下左図）がある。海軍部隊が関連し、本記念章が付与される事変は、「第1次上海事変」（1932年（昭和7年）1月～3月）である。したがって、「野口良作」は、下右図の参加部隊（艦）のいずれかで参加したと思われる。



上海に派遣中、「野口良作」の同僚が、上海で知り合った女性と、帰国後、上海に渡り、結婚したエピソードが残されている。（次男龍二氏談）→ 当時、艦勤務だった証左

【第三艦隊】（第1次上海事変のために編成）

・直属：出雲・能登呂・上海特別陸戦隊

◆ 第一遣外艦隊

防護巡洋艦：平戸、対馬

軽巡洋艦：天龍

装甲巡洋艦：常磐

駆逐艦：浦風、桃、檉、檜、柳

砲艦：安宅、宇治、伏見、隅田、勢多、比良、保津、堅田、鳥羽、熱海、二見

◆ 第二遣外艦隊

軽巡洋艦：球磨

装甲巡洋艦：八雲

駆逐艦：若竹、呉竹、早苗、早蕨、朝顔、夕顔、芙蓉、刈萱

◆ 第3戦隊：那珂・阿武隈・由良

◆ 第1水雷戦隊

軽巡洋艦：夕張

第22駆逐隊：皐月・水無月・文月・長月

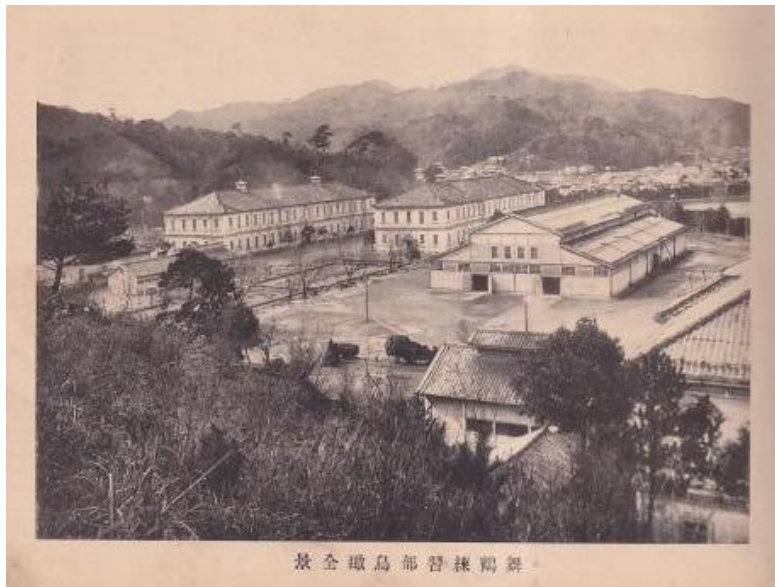
第23駆逐隊：菊月・三日月・望月・夕月

第30駆逐隊：睦月・如月・弥生・卯月

第1航空戦隊：加賀、鳳翔

第2駆逐隊：峯風、澤風、矢風、沖風

3 兵・下士官時代の経歴



舞鶴海兵団庁舎(大正時代)

【舞鶴海兵団庁舎(大正時代)】
 → 舞鶴鎮守府設置と同時に中舞鶴に設置されていた。しかし、軍縮条約締結後、要港部に降格され、海軍機関学校に転用。1939年(昭和14年)4月東舞鶴に再設置。戦後、保安庁警備隊舞鶴練習隊(現海上自衛隊舞鶴教育隊)に転用



横須賀砲術学校(1925年(大正14年)当時)



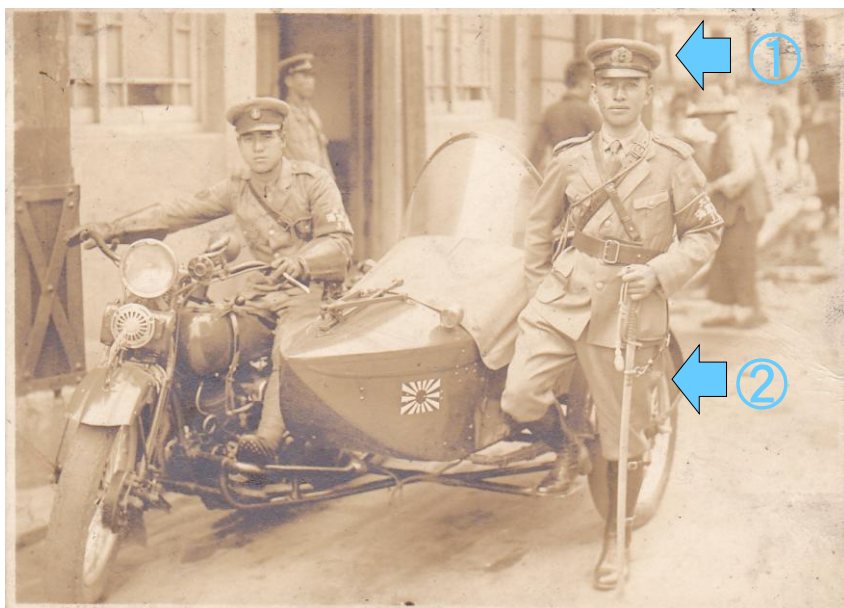
横須賀鎮守府等の所在時(*5)

【横須賀砲術学校(1925年(大正14年)当時)】
 → 同校の場所は、現在、アメリカ海軍横須賀基地内(青い破線で示す地域)

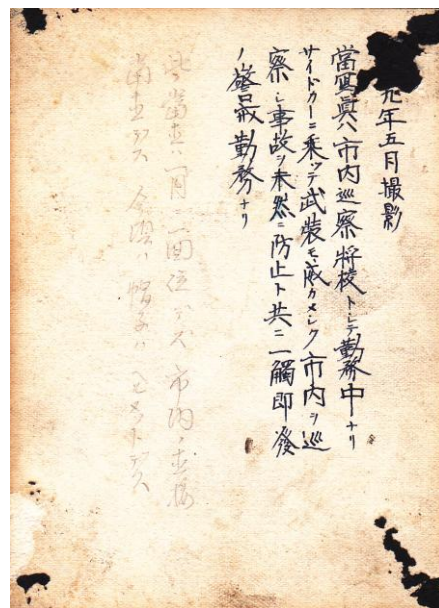
*5 森田衛(昭和58年)、『海軍と横須賀』、海上自衛隊横須賀総監部総務課、付紙第2

4 上海勤務と兵曹長時代

1934年(昭和9年)、上海海軍特別陸戦隊に警備勤務。いつから配置されたのか、また、活動内容に係る記録なし。



【上海市内の巡察に向かうため、サイドカーに乗り込もうとする野口良作兵曹長】



【左写真の裏面】

①制帽の帽章の種類から階級が判明



下士官
(3~1等
兵曹)

准士官
(兵曹長)

○ 上海海軍特別陸戦隊

1932年(昭和7年)10月1日、上海に特別陸戦隊を置くことを内容とした「海軍特別陸戦隊令」が制定。鎮守府から独立した常設部隊に昇格。編制:2個大隊基幹の約2000人。編成における兵曹長は、小隊長の役目を担っていた。(*6)

○ ②帯剣規定

海軍服制第116条により、職務命令下で許可されており、上海では指揮者・巡察任務に従事する兵曹長は帯剣していた。

*6 大日本帝国海軍、『上海海軍特別陸戦隊写真帖』(昭和8~10年頃撮影)、防衛研究所所蔵

5 特務士官としての昇進

1935年(昭和10年)10月10日、海軍兵学校選修学生(第16期)として、入校し、1937年(昭和12年)6月26日卒業。特務少尉(特務士官)に昇進した。

○ 選修学生制度

1920年(大正9年)から1942年(昭和17年)の間、優秀な准士官(兵曹長)及び1等兵曹の中から選抜して、生徒教育に準じた教育を行う課程。兵から入団する者にとって、海軍将校となる唯一の道であった。

○ 特務士官制度

准士官中、所定年限(進級停止)以上、在職勤務し、かつ技能卓抜、人物優秀な者を選抜した。(*6)

○ 特務士官に係る呼称等

選修学生を卒業し、将校となっても士官の称号には「特務」が付され、海軍兵学校生徒からの将校とは分別されていた。

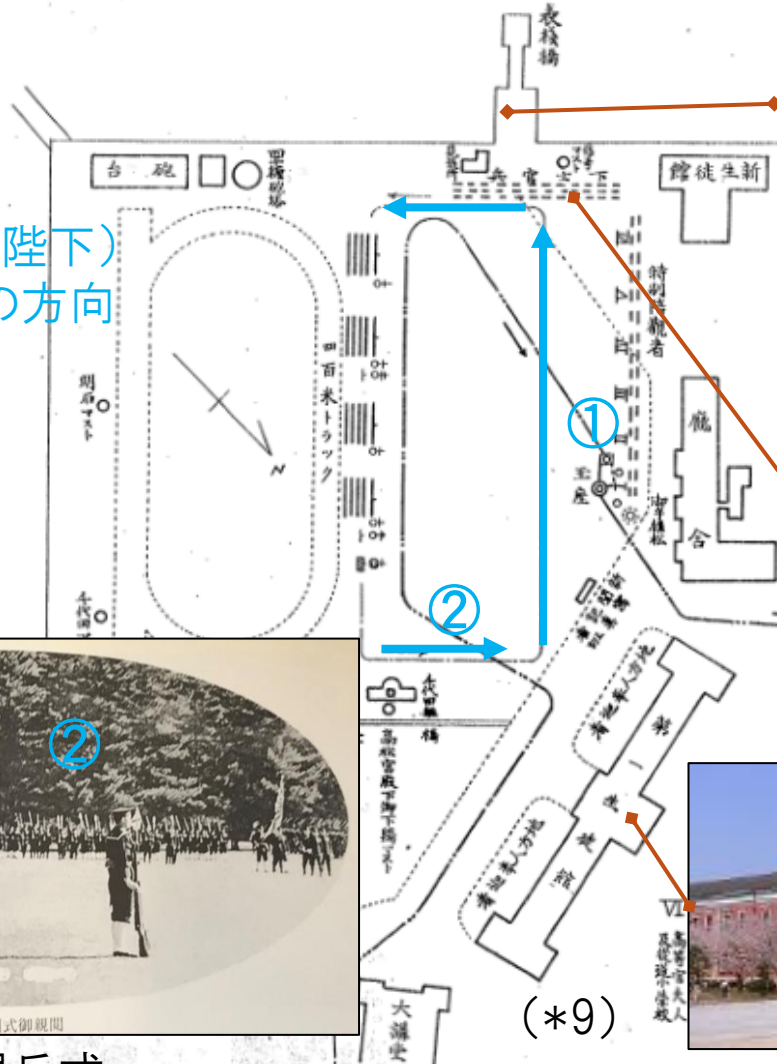
◆ 昭和9年4月1日以降、「特務大尉」から「少佐」へと佐官に進級できる道が開かれ、少佐には「特務」は付されなかった。(*7)

◆ 昭和17年7月15日から特務士官制度が改正され、同年11月1日から「特務」が除かれることになった。ただし、同年10月2日「野口良作」が戦死しても、舞鶴鎮守府大東亜戦争戦没者合同海軍葬儀弔辞弔電等には、「特務大尉」と記載されており、「特務」は引き続き用いられていた。

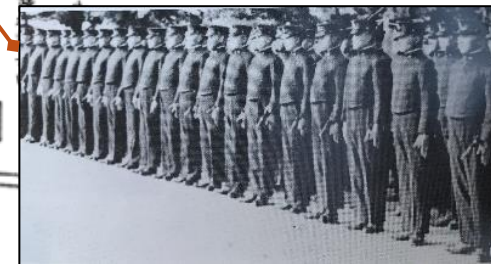
5 特務士官としての昇進

江田内(沖に御召艦愛宕が投錨中)

- ①玉座(天皇陛下)
- ②部隊行進の方向



表棧橋から大講堂に移動中の行幸一行



生徒奉送(出迎え)



観兵式

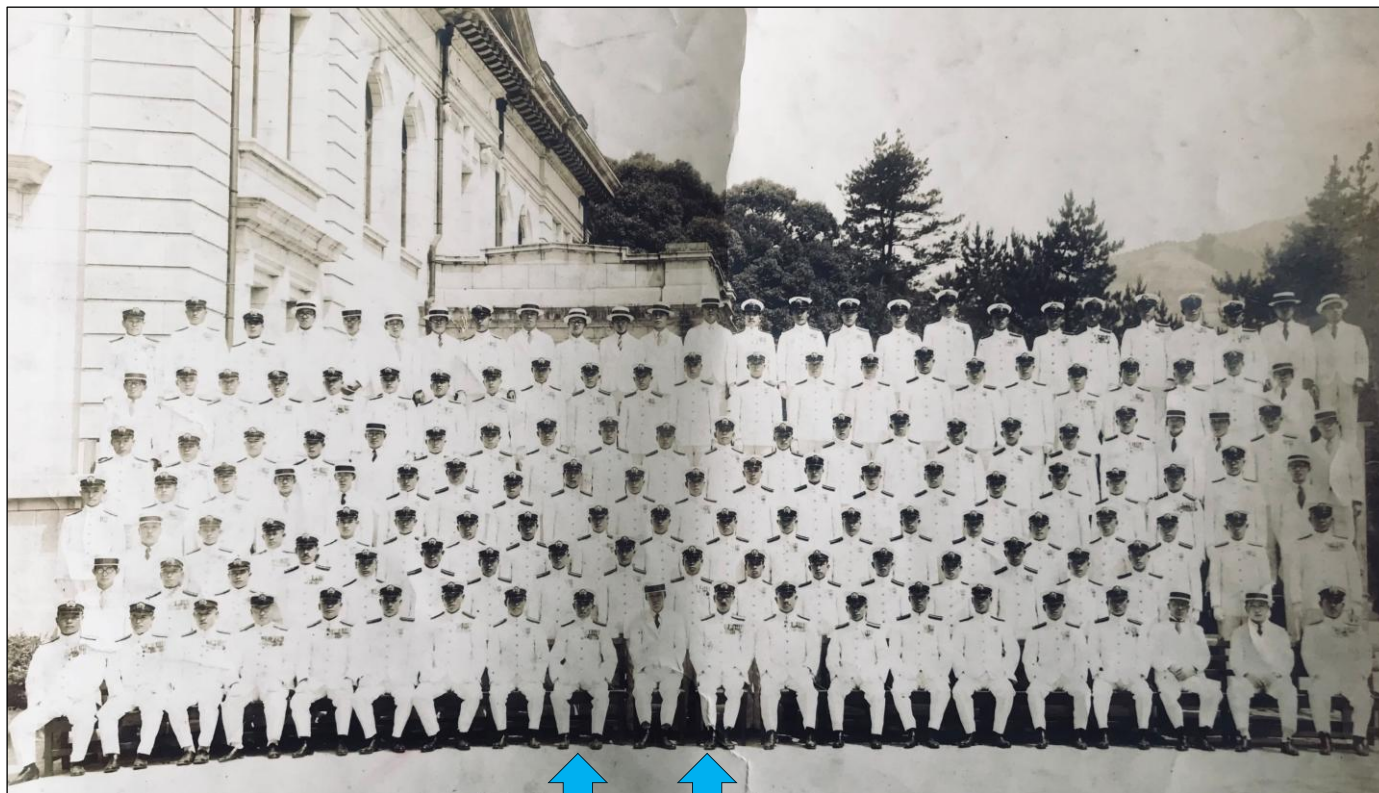


第1生徒館

*9 海軍兵学校長(1936年)、『行幸儀禮等に関する件報告。兵學第312号』、(アジア歴史資料センター所蔵)

5 特務士官としての昇進

第16期選修学生は、計70名が入校。1937年(昭和12年)6月26日「野口良作」は、優等賞を獲得して卒業。大講堂前で撮影された卒業式の記念写真が残されている。卒業後、海軍兵学校に職員(教官)として、配置された。



<左写真から拡大>

野口良作 校長 中将 出光 万兵衛

5 特務士官としての昇進

海軍兵学校で教官職に付いている際、海軍兵学校生徒の卒業生と連れて遠洋航海に参加した。(次男 龍二氏談)

遠洋航海の目的

主に初級将校としての必要な資質の育成、実践的な知識・技能の修得、および国際感覚の涵養

昭和13年～15年の実績

「野口良作」は、下表のいずれかの遠洋航海に参加したものと思われる。ただし、当時、地中海コース、アメリカコース、世界一周コースもあった正規の遠洋航海は、支那事変によって期間が約3か月に短縮されていた。

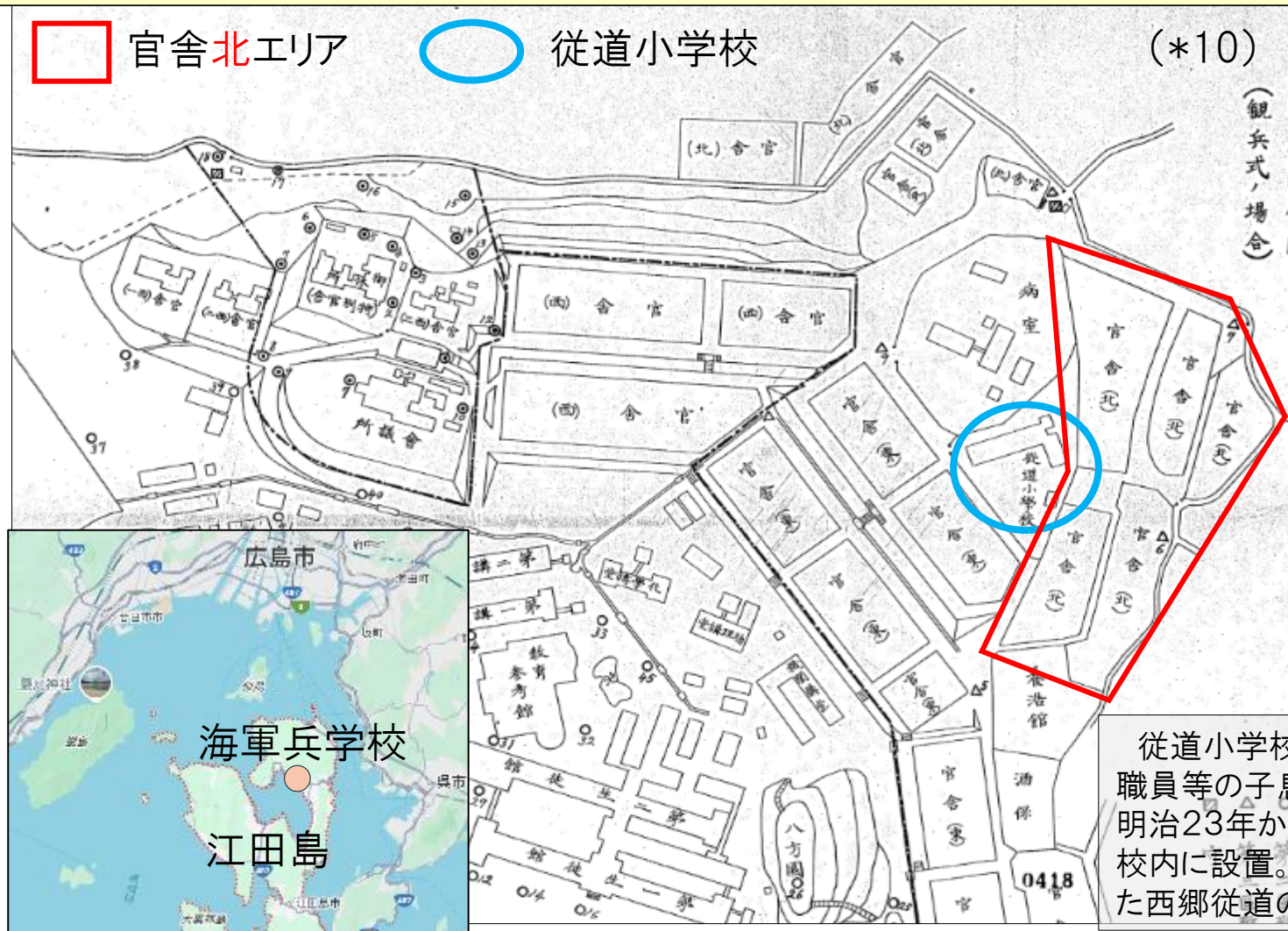
実施年	艦艇	参加卒業生	行き先
1938年(昭和13年)	八雲・磐手	兵学校65期	東南アジア・南洋諸島
1938年(昭和13年)		兵学校66期	東南アジア
1939年(昭和14年)		兵学校66期	ハワイ・南洋諸島
1940年(昭和15年)	香取・鹿島	兵学校67期	日本海・東シナ海

5 特務士官としての昇進

少なくとも1935年(昭和10年)10月から昭和16年まで、「野口良作」は家族とともに、広島県江田島の官舎(北第49号)に住んでいた。

□ 官舎北エリア

○ 従道小学校



(*10)

- 長女 玲子氏及び三男 淳氏は、江田島で誕生し、江田島で出生届が出されている。(戸籍謄本)
- 長男 精一氏、次男 龍二氏は、従道小学校に通っていた。
- 官舎では、米次郎氏の四女 モリ氏がお手伝いに来ていた。

従道小学校は、海軍兵学校在職員等の子息が通う学校として、明治23年から昭和20年まで校内に設置。海軍大臣を歴任した西郷従道の名前から命名

*10 海軍兵学校長(1936年)、『行幸儀禮等に関する件報告。兵學第312号』、(アジア歴史資料センター所蔵)

6 巡洋艦「天龍」での任務

巡洋艦「天龍」乗り組みの時期

- 人事発令(「海軍辞令公報 甲／乙」など)に関する資料がないため、いつ、「野口良作」が巡洋艦「天龍」に乗り組みとなったのか不明である。
- 1941年(昭和16)年3月、三男 淳氏が誕生した際、江田島村への出生届が出されていることから、この時期は、海軍兵学校に未だ勤務していたと断定できる。
- 当時の特務士官、士官の定期人事異動は、4月1日付であり、夏期(7、8月)又は秋期(10月)において、昇任、艦隊編成替えなどで人事異動があった。
- 同年8月15日海軍は、出師準備作業の第二着作業の一部を発動した。すでに1940年(昭和15年)11月15日、海軍は出師準備作業の第一着作業が発令し、対米開戦の軍戦備を推進した。

出師準備

- 国軍を平時の態勢より戦時の態勢に移し、且戦時中之を活動せしむるに要する準備作業(*11)
- 軍需品整備、艦艇建造(マル急計画など)、特設艦船の準備、人員動員、港湾・通信整備など、多岐にわたる大規模な準備作業 → 各艦は、所要の弾薬、燃料を搭載するだけでなく、人員の異動、補充も実施

昭和16年8月、「野口良作」は、出師準備作業に伴い、巡洋艦「天龍」へ乗り組みになった可能性がある。巡洋艦「天龍」の母港は、舞鶴であったため、家族も共に舞鶴(官舎)に異動したと考えられる。

*11 防衛庁防衛研究所戦史室編(1975年)、『戦史叢書 大本営海軍部・連合艦隊(1)開戦まで』、朝雲新聞社、p479

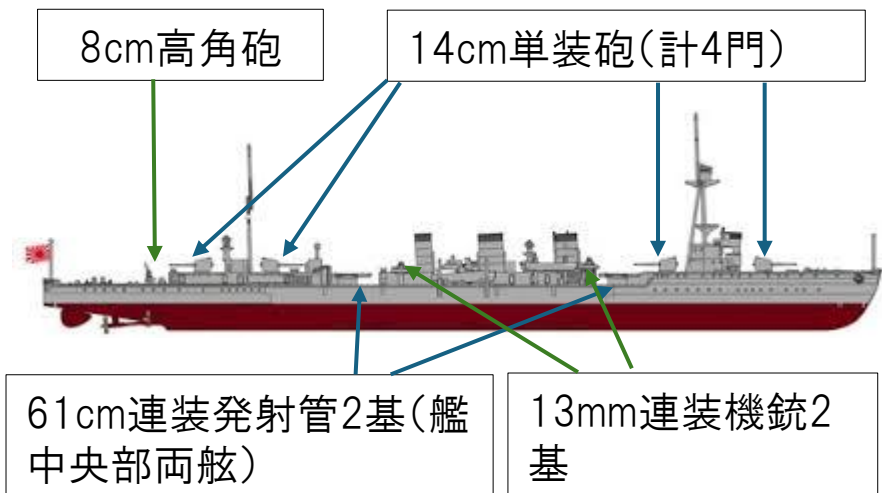
6 巡洋艦「天龍」での任務

巡洋艦「天龍」の概要

艦種	軽巡洋艦(2等巡洋艦)
造船所	横須賀海軍工廠
竣工	1919年(大正7年)11月20日
所属	第4艦隊第18戦隊(昭和16年12月戦時編制改定)
母港	舞鶴(昭和16年当時)

【主要性能】

項目	数値／内容
基準排水量	約3,500トン
全長/全幅	142.7m/12.3m
主機	オール・ギヤード・タービン(高低圧)3基3軸
最大速力	約34ノット
航続距離	5,000海里(14ノット時)
乗員	約330名(戦時期)



大東亜戦争における戦歴

- 1941年12月 ウェーク島攻略作戦
- 1942年1月～2月 ラバウル・カビエンの攻略作戦
- 3月 ラエ・サラモア攻略作戦
- 4月 ポートモレスビー攻略作戦
- 8月 第1次ソロモン海戦
- 8月～9月 ラビ攻略作戦
- 10月2日 ラバウルで被弾
- 11月 第3次ソロモン海戦
- 12月18日 マダン上陸作戦で被雷、沈没

6 巡洋艦「天龍」での任務

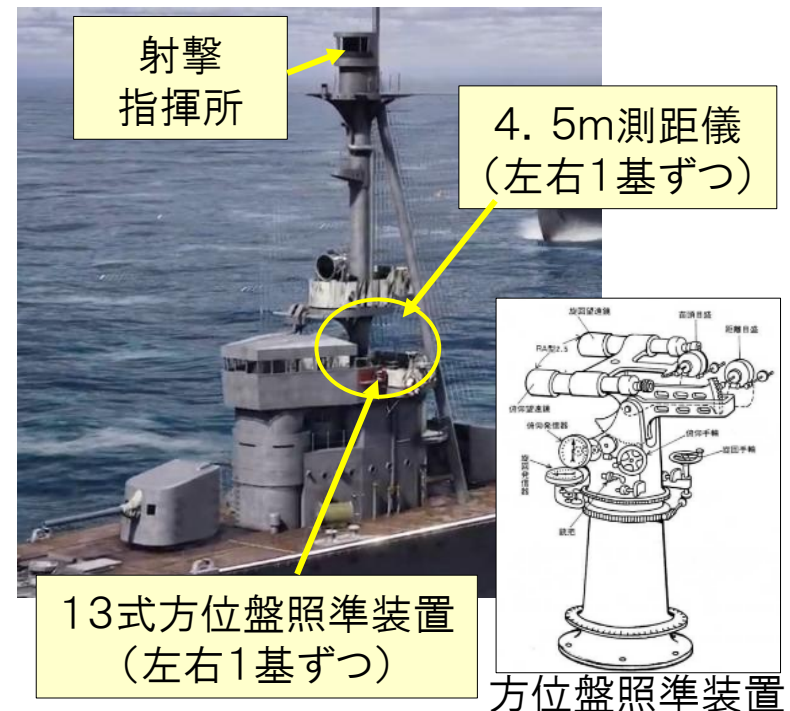
「野口良作」の配置

- **主砲台長又は掌砲長**であった可能性がある。
 - 昭和17年10月2日の「天龍」の主要被害「死傷」で「准士官以上3名」の内訳に「**主砲台長**」が記載(*12)
 - 当時の巡洋艦「天龍」機械分隊長 三浦大尉は、同被害に関して「砲弾の破片が頭部を貫通して即死した**掌砲長**、…」と証言している。(*13)
- 戦闘部署(配置)において、「野口良作」は、右下図の射撃指揮所又は艦橋内左右いずれかにおいて、主に主砲(4門)の射撃指揮に従事していたと思われる。

【砲術科主要配置】

役職	階級等	主な職務
砲術長	兵科大尉／少佐	全砲員の戦闘指揮、射撃統制官
砲術士補	大尉／中尉	射撃準備、照準指揮、砲側訓練の統括
掌砲長	特務中尉又は兵曹長	各砲塔・砲側の統率、射撃号令伝達、弾薬装填指揮
主砲台長	特務中尉～兵曹長	各砲塔・砲座の直接指揮

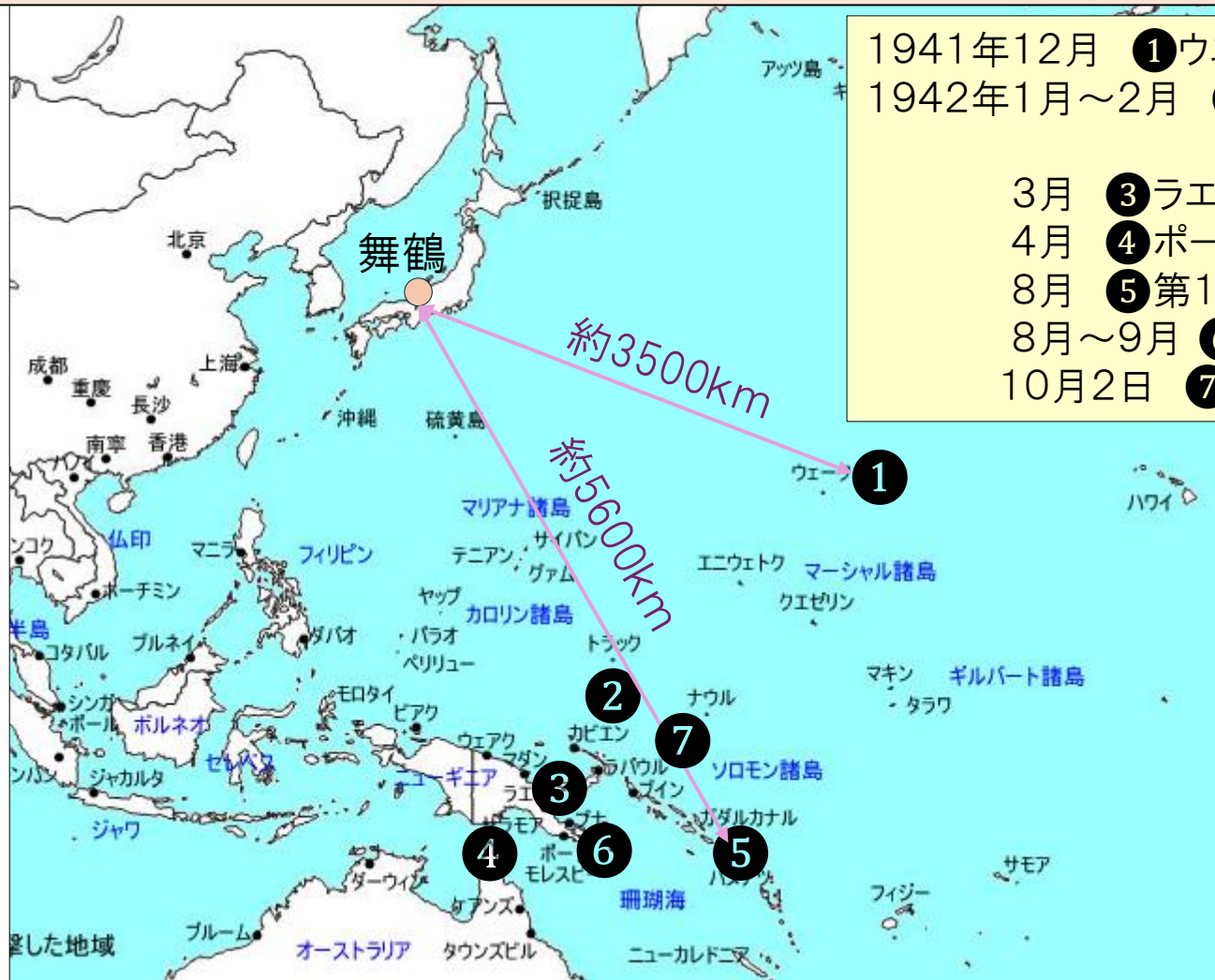
巡洋艦「天龍」は、就役時から13式方位盤照準装置が装備され、14cm砲4門を一元的に射撃管制していた。(*14)



*12 『昭和17年10月1日～昭和17年10月31日第18戦隊戦時日誌戦闘詳報』
 *13 松田源吾他(2017年)、『軽洋海戦史』、潮書房光人社、p138
 *14 高須廣一、『日本海軍のFCS、その技術的回想(世界の艦船1995年3月号)』、p97、p101

6 巡洋艦「天龍」での任務

大東亜戦争開始から戦死されるまで、「野口良作」が従事した主な作戦の場所は、以下のとおりである。昭和17年5月～6月舞鶴で修理している他は、常に作戦に従事していた。

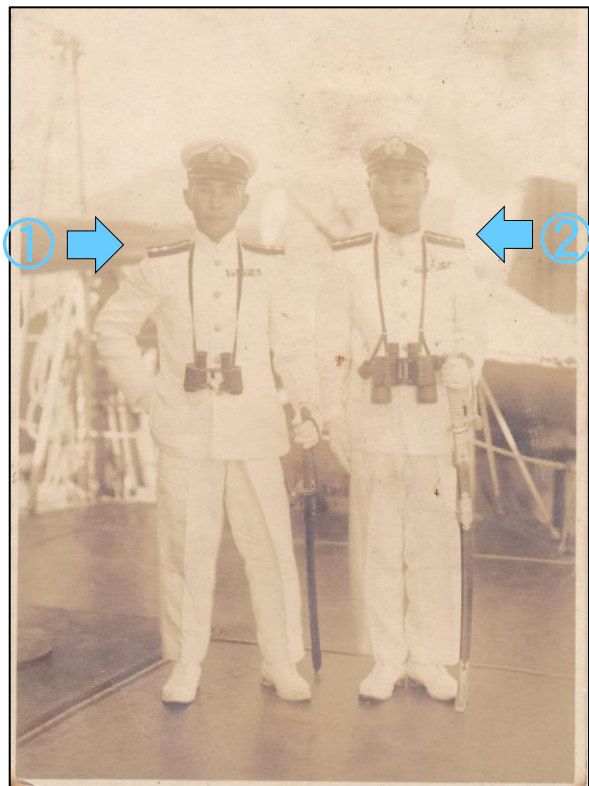


- 1941年12月 ①ウエーク島攻略作戦
1942年1月～2月 ②ラバウル・カビエンの
攻略作戦
3月 ③ラエ・サラモア攻略作戦
4月 ④ポートモレスビー攻略作戦
8月 ⑤第1次ソロモン海戦
8月～9月 ⑥ラビ攻略作戦
10月2日 ⑦ラバウルで被弾

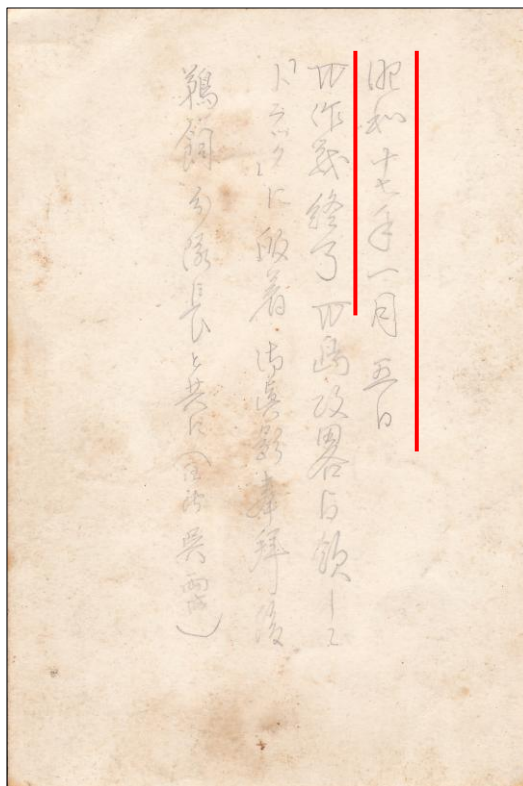
6 巡洋艦「天龍」での任務

1942年(昭和17年)1月5日トラック泊地の巡洋艦「天龍」艦上で撮影された「野口良作」の貴重な写真である。

→ ウェーク島攻略に苦戦したことから、束の間の休息を取ったと思われる。



左:野口良作特務中尉
右:鵜飼 大尉(分隊長)



写真の裏面に説明書き

- 昭和17年1月3日、第18戦隊は、W(ウェーク島)攻略作戦を終えて、トラック泊地に入港(*15)
- 写真から「野口良作」の階級章から①「中尉」、鵜飼部隊長は、②「大尉」であることが分かる。
- 同年1月20日ラバウル・カビエンの攻略作戦のため、第18戦隊は出港(*16)

*15 防衛庁防衛研究所戦史室編(1975年)、『戦史叢書第38巻 中部太平洋方面海軍作戦<1>昭和十七年五月まで』、朝雲新聞社、p320

*16 防衛庁防衛研究所戦史室編(1975年)、『戦史叢書第49巻 南東方面海軍作戦<1>ガ島奪回作戦開始まで』、朝雲新聞社、p48、p49及びp61

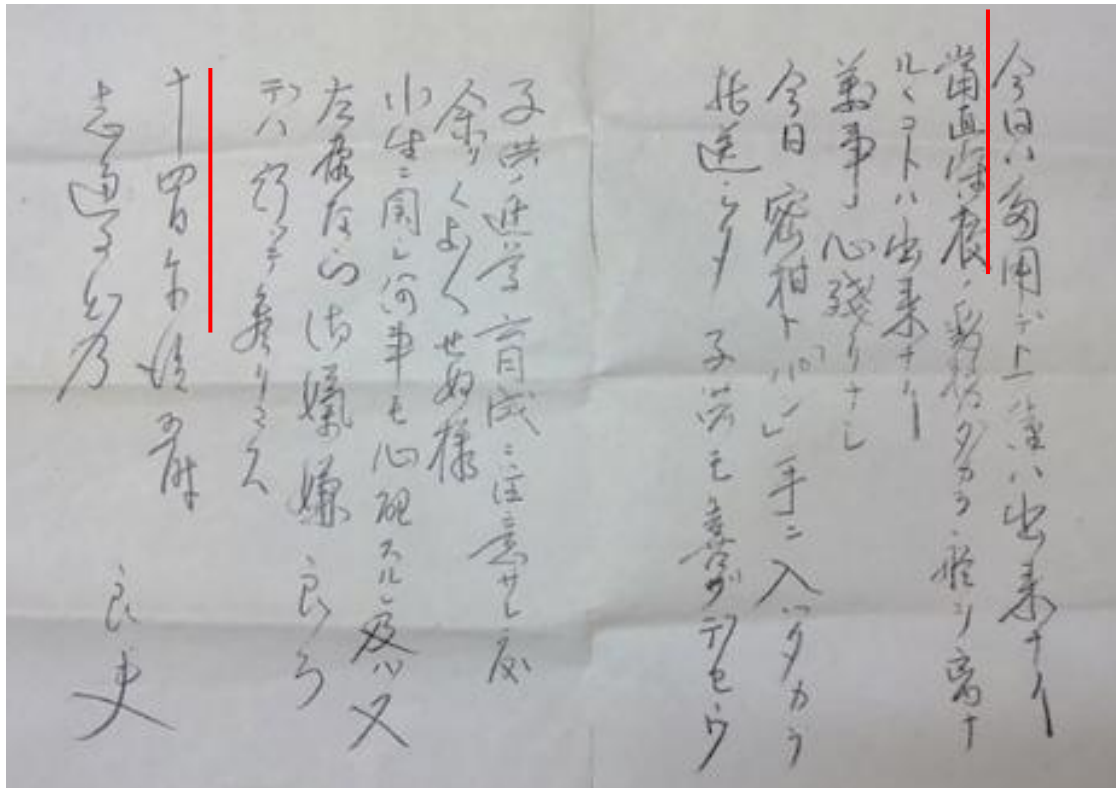
6 巡洋艦「天龍」での任務

1942年(昭和17年)1月5日トラック泊地に入港後、知人宛に書かれた手紙と思われる。
→ ウェーク島攻略作戦において、巡洋艦「天龍」は、米軍の陸上砲台からの砲撃、米航空機(F4Fワイルドキャット戦闘機)から、至近弾、機銃掃射を受け、数名の死傷者が出た旨が記載されている。

十一月十日付の由子氏(一月三日に
○○○と拝見)に大東亜戦争の勲章
にしようとしたこと思ふ
開戦以来早くも一月の間に戦果は
新開にたいして等々知るところ
中存心の上りたるは連勝殊に海軍
の奮戦目算らしい。この日敵の訓練
吾等もあらう十日及二十三日に○○○
果し着かし苦戦奮闘の上これ
陥入れに此の戦いを敵の砲撃や機
銃掃射の爆弾及機銃の掃射も皆
成功した。この味方砲撃及び機銃
多く射し、我が天龍艦は幸い激傷
もなく、たゞ数名戦死者の死傷も出さ
し生還した。次々一生懸命に戦
おる人々日は○○○に入港一寸一息
近々又○○○作戦に出撃す
勿論吾々の命令は君に捧げ方に
大東亜の礎も覚悟し奮戦ある
のゆえ
方角のよめに心をせしむ
とうか仲を念慮のあつとめに精進す
まはる

6 巡洋艦「天龍」での任務

- 1942年(昭和17年)5月23日巡洋艦「天龍」は、舞鶴に入港した。そして、1941年(昭和17年)6月15日巡洋艦「天龍」は、舞鶴を出港した。(*17)
- 下の手紙は、6月14日書かれたものであり、当日「野口良作」は当直将校のため、帰宅できなかった。



封筒内に手紙は1枚。家族には「パン」とともに官舎に届けられた。

入港中の巡洋艦「天龍」

- ・6月3日～6月13日までの間、海軍工廠の第3船渠(ドライドック)に入渠
- ・船体の整備、修理に加え、25ミリ連装機銃を2基の増備、舷外電路装備、探照灯の移設や換装(*18)
- ・この間、乗員には休暇が出されたものと推定

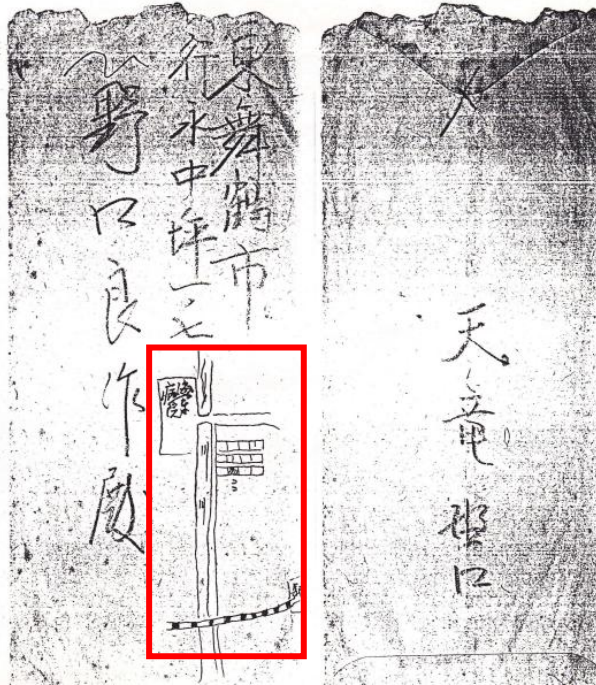
手紙には、子供の育成に関すること、最後に「左様ならご機嫌良うでは行って参ります」旨、別れの挨拶が記されている。

*17 『昭和17年5月1日～昭和17年7月31日 第18戦隊戦時日誌戦闘詳報』

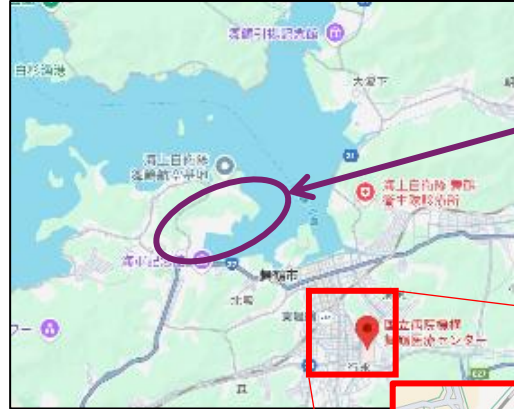
*18 歴史群像編集部(2005年)『帝国海軍真実の艦艇史(2)(歴史群像 太平洋戦史シリーズ Vol. 51)』、学習研究社、p94～p96

6 巡洋艦「天龍」での任務

1942年(昭和17年)6月14日、「野口良作」が前スライドにある最後の手紙を託す者に対し、手紙の封筒の表に、官舎の場所を地図で明記していた。その官舎の場所を特定した。現在は、海上自衛隊の官舎ではなく、住宅街となっている。



封筒(表)に官舎の場所(赤枠)が記されている。



東舞鶴全域

舞鶴の海軍工廠(第3船渠を含む。)。現在は、JMU(ジャパン・マリン・ユナイテッド)造船所があり、主に海自艦船の修理、整備を受注している。



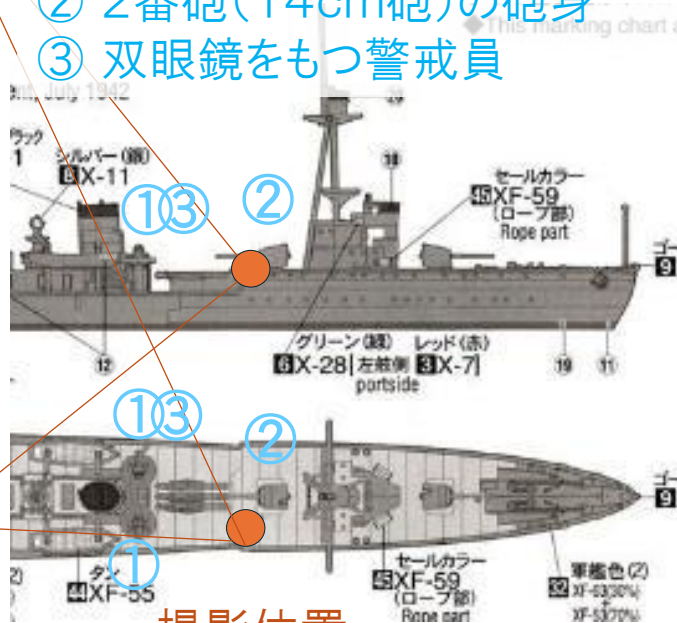
6 巡洋艦「天龍」での任務

1942年(昭和17年)6月13日、第18戦隊司令官が、海軍少将 丸茂邦則から海軍少将 松山光治に交代した(*19)。下の写真は、巡洋艦「天龍」艦上で撮影されたものである。③(警戒員)が写っていることから、同年6月23日トラック泊地の入港後から7月20日ニューギニア島ブナ攻略作戦(ポートモレスビー攻略作戦の一つ)の間に、トラック泊地で撮影されたと推定する。
 なお、1941年第18戦隊編成時から、巡洋艦「天龍」は第18戦隊旗艦を担った。



前列 松山光治少将、後列左端 首席参謀 篠原多磨夫中佐(推定)ほか参謀2名

- ① 25ミリ連装機銃(開戦当初から装備されていた13ミリ連装機銃から換装されている。)
- ② 2番砲(14cm砲)の砲身
- ③ 双眼鏡をもつ警戒員



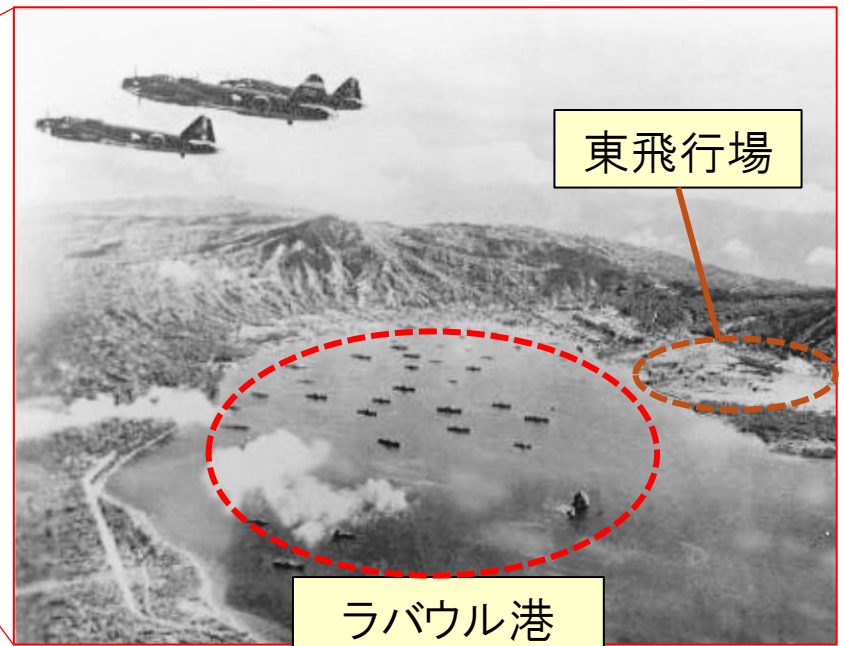
撮影位置

*19 『昭和17年5月1日～昭和17年7月31日 第18戦隊戦時日誌戦闘詳報』

7 戦死とその後について

戦死時の状況

- 当時の巡洋艦「天龍」機械分隊長 三浦大尉の証言によると、「戦死者は遺品となるものを残し、ラバウルの東飛行場の隅に穴を掘り、油をかけて荼毘に付したが、なぜか、なかなか燃えなくてこまった。」
→ この証言通り、「野口良作」の遺品も、四角い木箱に舞鶴の遺族に届けられた。戦後もしばらくの間、この木箱が自宅にあったことを三男 淳氏は記憶している。

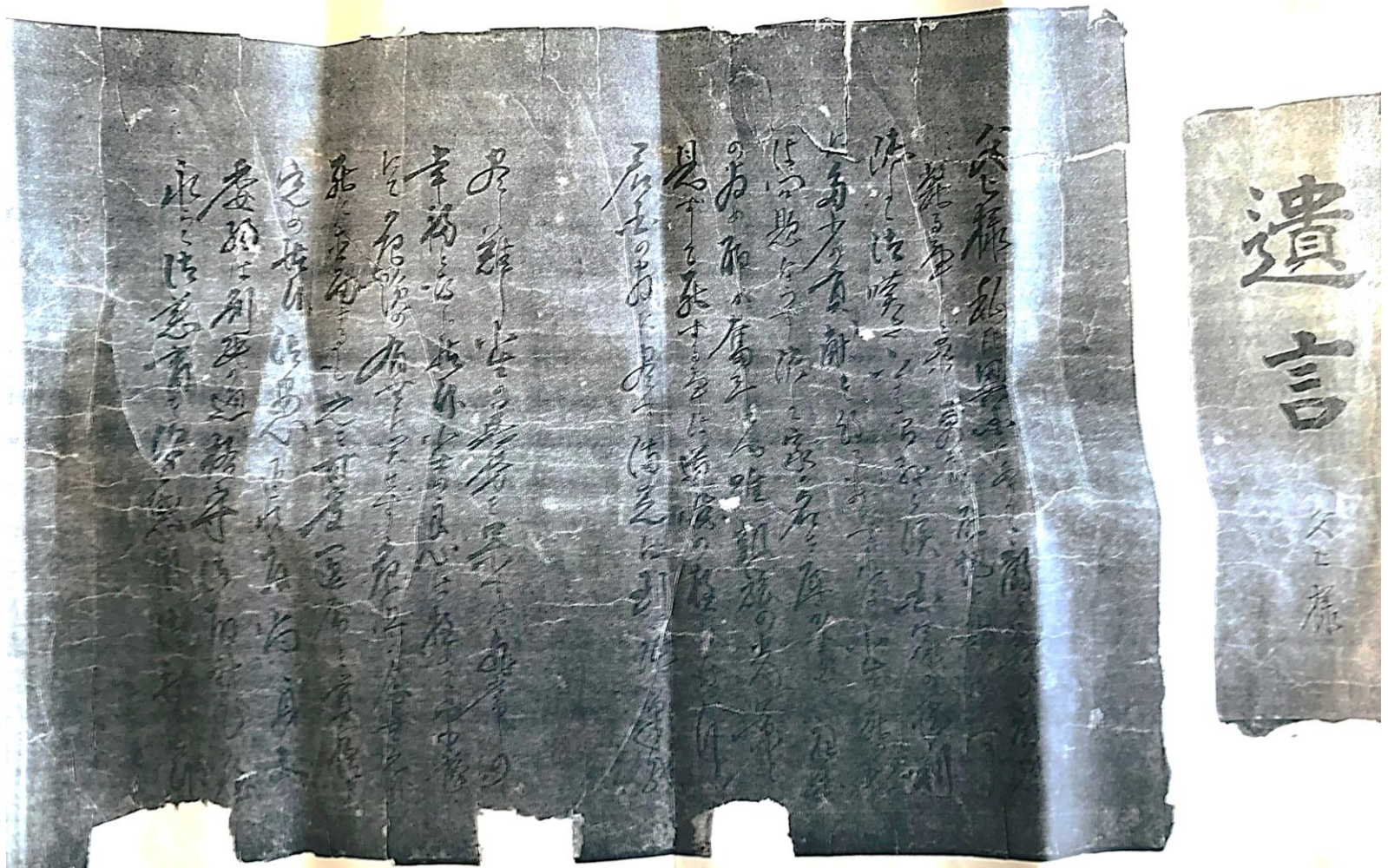


巡洋艦「天龍」は、ラバウル港内のいずれかで停泊(錨泊)中、爆撃を受けた。

7 戦死とその後について

父宛の遺書

- 「野口良作」が書いた父 米次郎氏宛の遺書(写し)が現存する。いつ、どこで書かれたものかは不明



7 戦死とその後について

「野口良作」の葬儀等

- 1942年(昭和17年)12月3日「野口良作」の戦死が公表された。
- 1943年(昭和18年)2月23日、舞鶴鎮守府で海軍合同葬、翌24日村葬が挙行された。

義 淳 院 釋 忠 論

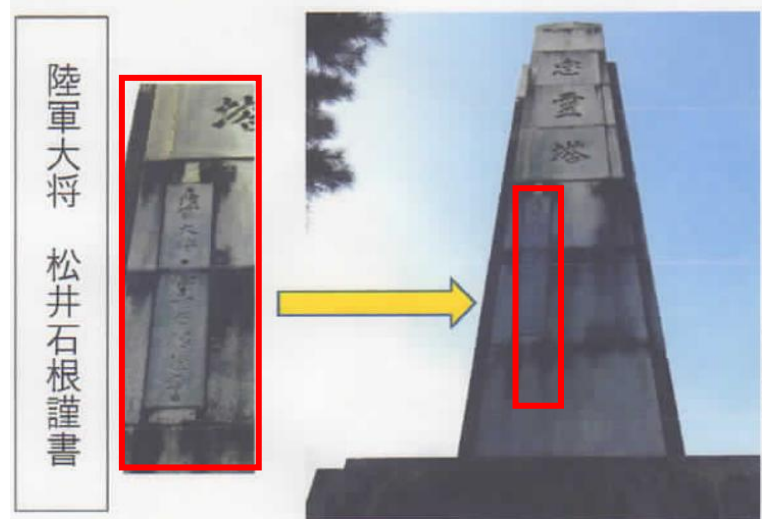
昭和十七年拾月式日午前三時四十分
ニユギニヤ一東部ニ於テ壮烈
ナル戦死ヲ遂ゲタリ
昭和十七年十二月三日公報

正七位勲四等功四級
海軍特務大尉
野 口 良 作

昭和十八年式月式拾参日
海軍合同葬(舞鶴海兵團)
昭和十八年式月式拾四日
村葬

故良作ハ父米次郎ノ次男ニシテ十八才ニ
シテ大正八年舞鶴海兵團ニ入團
二十三年ノ久シキニ渡リ海軍軍人トシテ
精勵格勤他ノ模範タリ

遺族
妻 志通子
長男 龍一
次男 龍二
長女 玲子
三男 淳子



2月24日村葬
では、陸軍大將
松井石根が参
列された。松井
大將が参列さ
れた経緯等は
不明(*22)

【次男 龍二氏談】

・この海軍合同葬の対象者が数百名であり、驚いた。大將(舞鶴鎮守府長官(中将 新見政一)と推定)が参加し、とても寒い日だった。

・舞鶴から富山へ汽車で移動中、悪天候(降雪)のため、金沢駅で動けなくなった。その夜、寝るために配布された毛布が重くて眠れなかった。

*22 米田幹雄氏(2018年7月)『近代戦争史と入善町、桐山の戦没者の状況』

7 戦死とその後について

「野口良作」の墓地

- 現在、「野口良作」の墓は横須賀市にある馬門山海軍墓地内にある。
- 馬門山海軍墓地は、1882年(明治15年)、海軍省により戦死もしくは殉職した軍人のために設けられました。毎年5月には墓前祭が行われている。



明治時代の墓(墓石には指名の他に出身地と「平民」等が記されている。)



墓前際の風景(海上自衛隊が支援)



野口家之墓(野口良作氏、妻 志通子氏、長男 精一氏が眠る。)

7 戦死とその後について

教育参考館

1936年(昭和11年)、広島県江田島にある「教育参考館」には、明治以来の卒業生で戦没した旧海軍士官・兵の氏名が刻まれた大理石製の銘板が展示されている。(下右の写真)当該銘板に、**選修学生欄に「野口良作」の名前が刻まれている**。現在、当該展示の部屋は、一般見学者には開放しておらず、親族等関係者等のみが入室できる。



教育参考館。昭和11年、海軍関係者や財界からの寄付によって建てられたギリシャ神殿風の鉄筋コンクリート造2階建ての建物。現在は海上自衛隊員の教育の場としても使用



背景にある白色が大理石製の銘板。1987年(昭和62年)、作成者(右端:当時12歳)は、父(三男淳氏(左から2人目)、母(光代)、作成者の弟(洋)とともに江田島を観光し、当該展示室を見学した。

7 戦死とその後について

松井大將が村葬に参列された理由の考察

松井大將と梶山等との関係

松井大將は、愛知県出身。それまでの陸軍経歴等において、富山県及び入善町、梶山と関連性は見当たらない。

1943年における松井大將の状況

- 1938年から予備役
- 「大亜細亞協会」会頭を努め、アジア主義運動を展開し、国内各所での講演活動を行っていた。
- 「思想国防協会」会長を努め、日米開戦の意義や東南アジア占領地における興亜思想の普及に尽力していた。
- 戦争の記念行事、戦没者追悼、大東亜共栄圏推進団体などへの関与も続ける。



陸軍大將 松井石根

戦没者の追悼に際しての当時の慣行

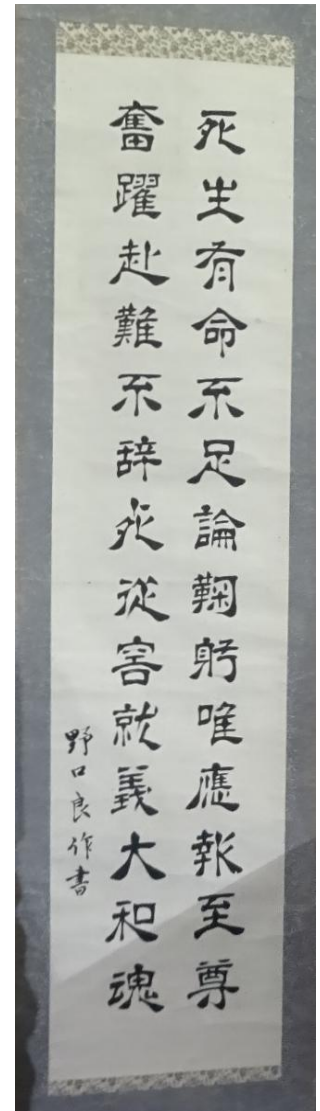
- 戦没将兵の村葬・町葬・組合葬が行われる。
- 軍・政府高官の代表が名誉参列することが通例化していた。
→ 戦局が厳しくなると、国民への戦意高揚と“遺族への慰問の姿勢”が重視
- 陸軍・海軍の著名将官が招かれることにより、国からの追悼の意志が表明された。
→ 「野口良作」(戦没者)に対する名誉と忠義の評価が背景にあり。

【結論】松井大將の参列は、戦没者追悼における国家・軍の象徴として、参列されたものと思料

8 結語・人物評価

エピソード等

- 「野口良作」に関し、見聞き等により残されている逸話は、以下のとおりである。
- **字が上手い**。戦後まで梶山尋常小学校の校内で、習字が掲示されていたことは、p5のとおり。
 - 残されている手紙、掛け軸(右図参照)からも達筆である。
 - **射的が上手い**。お祭りの射的で、次々と当てたため、店主から「これ以上は止めてほしい」旨、哀願された。
 - **子息の将来**に関し、長男は「官吏」、次男は「外交官」、三男は「軍人」と公言してした。
 - 三男 淳氏が誕生した日は、海軍兵学校第69期生の卒業式(久邇宮朝融王殿下、及川海相等も臨席)が挙行された日であった。そのため、「この子は、軍人」と言われたものと思料する。
 - 「野口良作」の妻 志通子氏によると、三男 淳氏の名前は、「野口良作」の教え子の中で、特に優秀な者の名前から取られたものであった。「あなたは名前負けだよ。」と言われた。(三男 淳氏談)(*23)
 - **子供の教育、躰に対し、厳しい**面があった。勉強を怠って、風呂場で水を浴びせられた。戦後、三男 淳氏は、妻 志通子氏から「お父さんがいたら、大変だよ」と言われた。
 - 「野口良作」が街を歩いていると、通り過ぎる**海軍軍人が敬礼してきた**。



*23 海軍兵学校第69期卒業生名簿で、「森田 淳」が確認できる。大東亜戦争で、伊号第174号潜水艦 航海長の際、戦死(階級:少佐(戦死後?))

8 結語・人物評価

エピソード等(続き)

- 自身が戦死したときのことを考え、**国債**(現在の価値で約4000万円(要確認))を購入、保有していた。しかし、敗戦により国債は価値を失ってしまった。
- 「**父が残してくれたものは、頭脳と健康**」(次男 龍二氏談(*24))
 - 次男 龍二氏(93歳)、三男 淳氏(85歳)も未だ健康である。
- 大東亜戦争が始まる前(江田島に住んでいるとき、1941年(昭和16年)と推定)、**汽船で家族で呉から「琴平旅行」**に行った。次男 龍二氏は、汽船では一家が座を引いて座り、通り過ぎる瀬戸内を眺めたこと、また、夜も賑わっている街を見たことがなかったことから琴平をととても記憶に残っている。
 - 「一生に一度はこんぴら参り」の信仰が庶民に根付いており、船乗りや商売人を中心に、全国から参拝に訪れ、賑わいを見せていました。
 - 主祭神である大物主神が海上守護の神として厚く信仰され、航海安全、豊漁、五穀豊穰、商売繁盛、病氣平癒など、幅広いご利益を求めて参拝
- 戦死後、遺品が木箱で送られてきた。木箱には短剣、日記などいろいろなものが入っていた。
- 野口良作は戦死する前、すでに特務大尉に昇進することになっていた。(次男 龍二氏談)
- 戦死したことが通知されると、**妻 志通子氏は、子供たちを整列させ、「野口良作」が戦死されたことに加え、これから勉強をしっかりとるように言った。**

*24 2026年(令和8年1月4日次男 龍二氏のご自宅で話を伺った。以下、第9項まで次男 龍二氏に係る内容は同日伺ったものである。

9 残された遺族について

- 舞鶴の官舎にいるとき、梶山から舞鶴を訪れる家族等を官舎に泊めてあげることが多々あった。これは海軍艦艇の舞鶴入港に合わせ、家族が面会のため、舞鶴に来るものの、ホテル等宿泊施設満室であったためである。
- 戦時中、三男 淳氏は、舞鶴に空襲が遭った際、防空壕に逃げ込んだことと、航空機の音などを記憶しており、「なぜ、このようなことをするのか」と思っていたと回想している。
- 戦後、三男 淳氏は、舞鶴港から東舞鶴駅まで歩いていく大勢の引き揚げ者を目撃している。妻 志津子氏は、引き揚げ者を支援する業務に従事しているとき、病気に感染して、舞鶴鎮守府病院に入院した。その際、妻 志津子氏の妹 加藤ミツ子氏が舞鶴の官舎で子供たちの面倒を見てくれた。また、舞鶴鎮守府病院の医官が、次男 龍二氏が中等学校に行けるよう面倒を見てくれた。
- 1946年(昭和21年)、一家は、舞鶴官舎を出て、横須賀市久郷に異動した。横須賀での住宅はひどく、トイレは外にあり、水道もなかった。
- 保有していた国債の価値はなく恩給も泊まったため、一家は困窮した。長男 精一氏と次男 龍二氏は、家を建てることと、長女 玲子氏と三男 淳氏が高校に行けるよう共に働くことにした。
- 妻 志津子氏は、ミシンで生計を立てた。ミシンは、「野口良作」が洋行した際に購入してきたものであり、当時は日本で手に入りにくいものだった。
- 1953年(昭和28年)、軍人恩給(*25)が復活するまで、「野口良作」の保有していたものを売って生活した。

*25 軍人恩給は、旧日本軍の軍人・軍属が一定期間の勤務、または公務上の負傷・死亡により退職した場合に、本人やその遺族へ支給される国家補償を基本とする年金制度

9 残された遺族について

○ 1959年(昭和35年)、荒廃した戦艦三笠の復興工事が開始に際し、元海軍関係者から寄付金を募った。(*26)その際、野口家にも求められ、妻 志通子氏はやむを得ず寄付に応じた。その際、「戦後、困窮時、何も支援してくれなかったのに…」と憤懣やる方なく語っていることを三男 淳氏は記憶している。

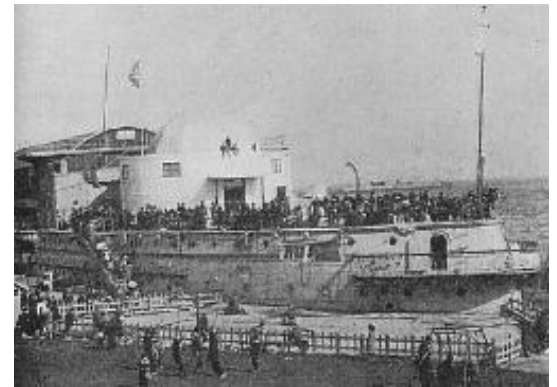
→ 戦後、相当に苦しい生活を強いられていた証左

○ 三男 淳氏が小学生の頃、担任教師による家庭訪問があった。担当教師は、女性であり、戦争未亡人であった。玄関で泣いていることを目撃した。

当時、クラスメイトの中には、父親を戦争で亡くしている同級生が少なくなかった。また、貧乏で弁当をもってこれないもの、音楽の授業で楽器を購入できないものがいたことを三男 淳氏が回想している。

○ 長男 精一氏は、大学に行きたかったものの、叶わず、国税局で働いた。以後、86歳まで税理士として働いた。

○ 次男 龍二氏は、食糧難の際、藤沢方面まで足を伸ばし、お百姓から食料をもらうことをお願いした。当時、それに大きな抵抗があった。お百姓が難色を示すこともあったため、横須賀で釣りし、お百姓に魚をもっていくと、食料と物々交換してくれた。



戦後、米軍に接收され、ダンスホールなどに使用され荒廃した「三笠」

*26 寄付には、米海軍減衰チェスター・ニミッツも含まれていた。1961年(昭和36年)5月27日日露戦争の象徴ともいえる“日本海海戦”の勝利記念日(戦前の海軍記念日)に合わせて復元記念式が行われ、記念艦三笠として蘇った。

9 残された遺族について

- 次男 龍二氏は中学1年時、英語を読めるまでのレベルになっていた。ただし、リスニングや会話ができなかったことから、市役所で教会の張り紙を見つけて申し込んだ。そして、週に1回教会に通い、宣教師の下でリスニング等英語力を身につけた。
- 次男 龍二氏は、英語ができることから、進駐軍の下請け会社で通訳として採用された。給料は、当時の公務員の3倍はもらっていた。
- 次男 龍二氏は、三男 淳氏が高校まで行ける目処が立ったため、慶応大学の通信制を始めた。そして、優秀な成績であったため、同大学の先生から見込まれ、3年生から通信制から正規の大学(本科生)に通い始めた。いずれも成績は優秀であり、プライドをもって勉学に常に励んでいた。卒業後、ニューオークラで働き、そして、1964年(昭和39年)、オリンピックのときにはニューオータニに秘書として採用された。当時のオーナーは富山県出身者であった。

作成者 後書き

調査の経緯

- 以前より祖父である「野口良作」が、海軍でどのような役割を担っていたのか、興味を持っていた。
- 2025年12月、中日新聞Webで、米田幹雄氏の『昭和史セミナー「昭和十七年の戦没者を考える」』セミナーに関する記事を偶然閲覧した。すぐに「入善まちなか交流施設うるおい館」に連絡し、米田幹雄氏とコンタクトを取ることができた。
- 米田幹雄氏から、自身が調査した資料を送付していただき、また、電話でも話を伺うことができた。その際、米田氏から先人のことを資料として残すことの重要性をお聞きし、感銘を受けた。そのことから、年末年始休暇を利用して、「野口良作」に関する調査を行おうと決心した。

調査の実施

- 「野口良作」に関する資料は、極めて少なかった。また、「野口良作」本人と接していた者の多くが他界しており、証言を得ることがほとんどできていない。
- 昨今、貴重でかつ大量の戦史資料(1次・2次資料)がデジタル化され、国会図書館デジタルコレクション、防衛研究所のHPで公開されている。同HPには検索機能があるものの、「野口良作」又は関連で出てくる資料はほぼ見当たらなかった。
- 防衛研究所、横須賀市中央図書館などにも足を運び、資料を漁ったものの、「野口良作」が海軍に入団してから、巡洋艦「天龍」に乗り組まれるまでの情報は得られなかった。また、「野口良作」に関する検索及び調査自体の方法の助言に、生成AIも活用した。
- したがって、本調査では、断片的に残されている資料を軸に調査した。また、経歴等は、当時の海軍軍人が歩む標準的なものを参考にして推察した。推察する事項が多く占めたものの、それを裏付ける根拠に乏しいことが弱点である。

今後の方針

現存されている方に証言を得られるよう努めるとともに資料の更新を続けていく。

主要参考・引用文献一覧表

- ・太平洋戦争研究会(2003年)、『江田島海軍教育』、新人物往来社
- ・池田清、野村実ほか、近現代史編纂会(2001年)、『海軍艦隊勤務』、新人物往来社
- ・坂本明(平成26年)、『ミリタリーユニフォーム大図鑑』、文林道
- ・森田衛(昭和58年)、『海軍と横須賀』、海上自衛隊横須賀総監部総務課
- ・吉川和篤(2012年)『上海海軍特別陸戦隊写真集』、大日本絵画
- ・『上海海軍特別陸戦隊写真帖』(昭和8～10年頃撮影)、海軍省(要確認)、(防衛研究所所蔵)
- ・吉川和篤(2013年)、『上海海軍特別陸戦隊写真集』、大日本絵画
- ・歴史群像編集部(2005年)『帝国海軍真実の艦艇史(2)(歴史群像 太平洋戦史シリーズ Vol. 51)』、学習研究社
- ・海軍省人事局第3課、『海軍生徒及各学校選修学生採用員数調』、海軍省人事局
- ・防衛庁防衛研究所戦史室編(1975年)、『戦史叢書第031巻 海軍軍戦備<1>昭和十六年十一月まで』、朝雲新聞社
- ・服部純昌(1986年)、『父子二代海軍戦記―海軍特務士官と学徒士官―』、宝印刷
- ・海軍編集委員会、『海軍』、誠文図書
- ・海軍兵学校長(1936年)、『行幸儀禮等に関する件報告。兵學第312号』、(アジア歴史資料センター所蔵)
- ・大濱徹也(1995年)、『帝国陸海軍事典』、同成社 (p310 定限年齢、p311、給与)
- ・『昭和16年12月1日～昭和17年1月31日 第18戦隊戦時日誌戦闘詳報』
- ・『昭和17年5月1日～昭和17年7月31日 第18戦隊戦時日誌戦闘詳報』
- ・『昭和17年9月1日～昭和17年12月24日 第18戦隊戦時日誌戦闘詳報』

主要参考・引用文献一覧表

- ・高須廣一、『日本海軍のFCS、その技術的回想(世界の艦船1995年3月号)』、海人社
- ・『歴史群像シリーズ[決定版]太平洋戦争②開戦と快進撃』、学習研究社(2009年)
- ・『地図と解説でよくわかる第二次世界大戦戦況図解WWⅡ Illustrated Atlas』、ホビー
ジャパン(2021年)
- ・防衛庁防衛研究所戦史室編(1975年)、『戦史叢書第38巻 中部太平洋方面海軍作
戦<1>昭和十七年五月まで』、朝雲新聞社
- ・防衛庁防衛研究所戦史室編(1975年)、『戦史叢書第49巻 南東方面海軍作戦<1
>ガ島奪回作戦開始まで』、朝雲新聞社
- ・防衛庁防衛研究所戦史室編(1975年)、『戦史叢書第83巻 南東方面海軍作戦<2
>ガ島撤収まで』、朝雲新聞社
- ・防衛庁防衛研究所戦史室編(1975年)、『戦史叢書 大本営海軍部・連合艦隊(1)開
戦まで』、朝雲新聞社
- ・米田幹雄氏(2023年1月28日)『昭和史セミナー「昭和十七年の戦没者を考える」』セミ
ナー資料、「昭和の日」記念講演実行委員会
<https://www.chunichi.co.jp/article/623271>
- ・米田幹雄氏(2018年7月)『近代戦争史と入善町、櫛山の戦没者の状況』
- ・田中宏巳(2017年)、『横須賀鎮守府』、有隣堂
- ・深井俊之介(2018年)、『戦艦「大和」反転の真相 海軍士官104歳が語る戦争』、宝島
社
- ・高橋 毅(情報本部 元防衛研究所戦史部所員)、『帝国海軍における人事と教育―昭
和 16 年当時(開戦直前)の人的運用を中心に―』、論文

主要参考・引用文献一覧表

・戸高一成、大木毅(2020年)、『帝国軍人 公文書、私文書、オーラルヒストリーからみる』、KADOKAWA

・昭和3年公文備考巻36、『大禮記念章名簿』、海軍省

・松田源吾他(2017年)、『軽洋海戦史』、潮書房光人社

【動 画】

・第69期・海軍兵学校卒業式

<https://www.youtube.com/watch?v=Af5UEuML5zk>

・[昭和16年] No.CFNH(C)-0043_2「波荒き洋上に巣立つ海の精鋭」(中日映画社)

<https://www.youtube.com/watch?v=lZ8zmrMpAll>

・軽巡洋艦『天龍』『龍田』 Japanese Light Cruiser TENRYU TATSUTA

<https://www.youtube.com/watch?v=1yHZQFiAHtg>

・【ゆっくり解説】帝国海軍伝統の夜戦 第一次ソロモン海戦 ガダルカナル島への殴り込み

【太平洋戦争】【記録 世界大戦

<https://www.youtube.com/watch?v=FxAL0-BF7LE>

・ #Shorts #大東亜戦争 #日本軍 #ラバウルとカビエンの占領

<https://www.youtube.com/watch?v=qo2Kjr70Awc>

・ #Shorts #大東亜戦争 #美しく清潔なラバウルがゴミ箱のよう

<https://www.youtube.com/shorts/DjbUWI18MTk>